

教育推進計画

1 教育目標

○川地中学校区小中一貫教育目標

『ふるさとを愛し、高い志をもつ児童・生徒の育成』～小中の学びのつながりをベースに～

○めざす子ども像

- (1) ふるさと青河・川地を愛し、誇りに思う子ども
- (2) 夢と学び続ける力を持ち、自己実現に向かう子ども
- (3) 社会の一員としての道徳性と積極的に社会へ貢献する志をもつ子ども

○川地中学校教育目標

ふるさとを愛し、高い志をもつ生徒の育成 ～創造 Create!～

○めざす生徒像

- 1 主体的に考えて行動・挑戦する生徒（主体性）
- 2 他者と協働しながら、新たな価値を創造する生徒（協働性）
- 3 自分の思いや考えを分かりやすく表現できる生徒（表現力）

2 研究主題

○川地中学校区研究主題

「主体的・対話的で深い学びを続ける児童・生徒の育成」

～各教科等・単元の本質を踏まえた、学び合う授業づくり～

○川地中学校研究主題

主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

～学びや仲間とのファシリテートを通して～

3 本年度の取組の重点

- (1) 自ら課題に向き合い主体的に学ぶとともに、対話を通して協働的に学びを深める力の育成を図る
- (2) 学び合いの中で考えを深める協働的な学びを充実させるとともに、根拠をもって説明する表現力の向上を図る
- (3) 個別最適な学びのための ICT 機器の効果的な活用
- (4) 「学区コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- (5) 小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- (6) 学校備品と予算を効果的に活用し、教育環境の充実を図る

4 川地中学校で身に付けさせたい資質・能力

知識及び技能

- 知識
- 技能

思考力、判断力、表現力等

- 思考力
- 判断力
- 表現力

学びに向かう力、人間性

- 協働性
- 主体性

○特に身に付けさせたい力

主体性	主体的に考えて行動・挑戦する生徒	
	1年生	・目標を達成するために、計画を立てて行動する。 ・将来に向けての夢や目標を実現するための方法を理解する。
	2・3年生	・目標を達成するために計画を立て、自己調整しながら行動する。 ・自分の将来像を実現するために、計画を立てて行動する。
協働性	他者と協働しながら、新たな価値を創造する生徒	
	1年生	・相手の思いや考えを理解しながら、共に考え行動する。
	2・3年生	・お互いの思いや考えを共有しながら、問題解決に向けて共に取り組む。
表現力	自分の思いや考えを分かりやすく表現できる生徒	
	1年生	・自分の思いや考えを、根拠をもとにして話す。
	2・3年生	・自分の思いや考えを、根拠を明確にし、相手に理解してもらえるように話す。

5 主題設定の理由

生徒の学びを「知識伝達型の学び」から「主体的な学び」へと転換するためには、教師が生徒を主体的な学びへと進める「ファシリテーター」へと意識を変えることが重要である。昨年度は研究主題を「本質的な問いの視点を取り入れた主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～学びや仲間とのファシリテートを通して～」のもと、対話、問いの精選や精度を高め、主体的に学びに向かう力を育てる「ファシリテーター」に視点においた授業改善に取り組んできた。

昨年度、生徒アンケート（5月・3月の計2回）の結果

【成果】
<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容を振り返ったり、復習したりする生徒の割合が増加した。 ・話し合いを通して、自分の考えを深め、新たな考え方に気づき、次の学習につなげようとする姿がみられるようになった。 ・自分がどこか分かっていないのかはっきりさせ、工夫して勉強しようとする生徒の割合が増加した。
【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを達成するために、自分の学習の進め方を選択していると感じている生徒の割合が低く、生徒それぞれの学習課題に合った授業改善が必要である。 ・学級の友達と話し合うなどして、授業において、自分の考えを深めたり広げたりする場や、適切な発問など「学びあい」の設定が必要である。 ・自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝わるように発表を工夫する方法や意識に課題がある。 ・自分の学習課題を考え、自主学習に取り組んでいる生徒の割合が低い。

これらの成果と課題から、生徒が自分から学ぼうとする意欲を高め、自分の考えを表現し、仲間と対話させたり外部とつなげたりして生徒一人ひとりの学びをファシリテートすることで、深い学びに向かわせることが必要である。

そこで、今年度は、研究主題を「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり～学びや仲間とのファシリテートを通して～」として、主体的に学びに向かう力を育てる「ファシリテーター」として、効果的な対話活動を通して、生徒の深い学びにつなげる授業改善を図る。

また、基礎知識の定着を徹底し、それを活用して考えや意見を述べるような生徒を育成していく。

6 研究仮説

学習課題の工夫と対話活動の充実を図り、ファシリテートを軸とした授業を展開することで、主体的に学びに向かう態度と、協働的に学びを深める力が育成されるだろう。

7 研究推進の方法・内容 重線は重点項目

(1) 主体的・対話的で深い学びのための授業改善

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒が学習の見通しをもち、自ら課題に向き合うことができるよう、学習課題の設定及び学習過程の工夫を図る。また、対話活動を効果的に位置付け、生徒同士が考えを交流しながら、協働的に思考を深める学習場面の充実を図る。さらに、学習のまとめや振り返りを通して、自らの考えを整理・再構築する機会を設け、理解の深化を促す。加えて、評価の工夫を図り、自己評価及び相互評価を取り入れることで、自らの学びを客観的に捉える力の育成を目指すとともに、指導と評価の一体化を推進し、継続的な授業改善につなげる。

- ①教材の提示の工夫や導入の工夫
- ②言語活動の設定や課題発見・解決学習の設定、体験的な学習の設定
- ③基礎的・基本的な内容の確実な習得と定着
- ④パフォーマンス課題の工夫や課題設定の工夫、問いの工夫
- ⑤タブレット端末やホワイトボードの活用、効果的な使い分け

(2) 基礎的・基本的な内容の習得と定着

- ①習得と活用の両輪を位置付けた単元構想
- ②各教科の帯時間の活用や工夫
- ③授業と連動させた宿題や自学習
- ④タブレットドリルの活用

(3) 家庭学習及び自学習の改善

- ①授業と連動させた内容の出題
- ②生徒実態や生徒の習得・定着度合いに応じた出題の工夫や内容の指導

(4) アウトプットの充実

- ①協働学習を取り入れた対話活動等の設定及び充実
- ②振り返りの工夫、自己調整を意識した振り返りの実施
- ③各種コンクールへの応募

(5) 校内研修の充実

- ①職員研修での研究の方向性の共有
- ②授業や評価の実践交流を通じた課題や方向性の共有
- ③研究授業の推進と教員の授業参観の実施
- ④全教員による校内授業研究の実施及び学習デザインの作成
- ⑤各種調査やアンケートの検証と分析及び全体周知

(6) ICT の活用と指導

- ①基礎的・基本的な内容習得や定着
- ②協働学習や言語活動での活用
- ③生徒実態の把握と個別支援への活用
- ④情報リテラシー教育の推進

(7) 小中一貫教育の推進

- ①主体性・協働性・表現力を重視した教育活動の推進
- ②「学区コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の推進に向けた取組
- ③小中・小小連携による通学への不安解消（円滑な接続）に向けた取組
- ④特別の教科道德の推進
- ⑤小中合同行事の充実

8 検証方法及び目標指数

【「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育活動の推進】

- ①教職員「授業づくり」アンケート 全項目 80%以上
(4月→7月→12月→3月の計4回実施)
- ②生徒アンケート 項目 80%以上
(6月→2月の計2回実施)
- ③学力テスト(全国平均正答率 全教科+3ポイント以上)
実力テスト〔実力テスト6月(1年は5月)→1月〕
全国学力学習状況調査(4月)
三次市学力到達度検査(6月)
- ④三次市学力到達度検査(6月)基礎・活用・記述の観点において市平均以上

【表現力の向上】

- 生徒アンケート(6月→2月の計2回実施) 項目 80%以上

9 学校評価表

【「主体的・対話的で深い学び」を実現する教育活動の推進】

- ①教職員「授業づくり」アンケート 全項目 80%以上
(4月→7月→12月→3月の計4回実施)
- ②生徒「学習に関する」アンケート 項目 80%以上
(6月→2月の計2回実施)
- ③学力テスト(全国平均正答率 全教科+3ポイント以上)
実力テスト〔実力テスト6月(1年は5月)→1月〕
全国学力学習状況調査(4月)
三次市学力到達度検査(6月)

【個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実(ICT活用)】

- ①生徒アンケート(6月→2月の計2回実施) 項目 80%以上

【表現力の向上】

- ①生徒アンケート(6月→2月の計2回実施) 項目 80%以上
- ②1分間スピーチ(年2回以上)

【読書活動の充実】

- ①不読率アンケート(5月→12月の計2回実施) 不読率8%以下